

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ファーストクラス米田校		公表日		R.08年 4月 8日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		ニーズに合わせてや特性に合わせて、配置につく職員の変更や増減等臨機応変に対応している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	2	児童の名前を書いた籠を用意し、各自の物の住所を決めたり、名前ボードを導入するなど視覚サポートや物的サポートを行っている。	特に特性が強く出る児童にとって、環境設定が足りないと感じる部分はある。何が足りないかを見定めて、充実させていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	2		案や目標を出す人が一定になりつつある。全体が改善に参加してだけでなく、全体で考えて意見もさせるように会議等充実させていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		前回に頂いた意見から、支援内容に変化をつけてみたり、お知らせを増やしたりなどしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		朝のミーティングをほぼ毎日取り組んでいる。	利用者の利用時間の変動があり、少しずつMT時間が減っているため、別な方法での情報共有の場も考えたい。
	9	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		基本的な研修以外にも、職員の興味のある研修について、申請があれば参加できるシステムがある。	
適切な支援の提供	10	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	11	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		保護者様との連絡手段はいくつか用意させて頂いており、場面にに応じて密にお話をしている。	
	12	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	13	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			共有するタイミングにずれが生じ、不十分な状態になってしまう事はないとは言えない。口頭と紙面の二重で共有が十分に行き届くよう工夫したい。
	14	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	本人のレベルでルーティーンに組み込むことで日々、どこまで出来るか、どこまで出来たかを確認している。	ルーティーンであることでおざなりになっている場面もあり、ツールとしての立ち位置を今一度思い起こしたい。
	15	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	1		地域支援・地域連携が本人の関係機関のみになってしまうことが多い。地域での活動が少ない分、周りの地理に親しむ活動は行っていければと思う（近くの寺に参拝する初詣など）
	16	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1		個々チームへの問題提起の場合が多いが、教室全体で利用者児童をバックアップするサポート体制がある。
	17	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	2	工夫の一つとして、内容を固定化する事で進捗や目標を分かりやすくしている。	こだわりが強くてでしまう児童のこだわりを強化してしまわないように注意しながら設定する必要がある。
	18	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
19	支援前後には職員間で打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担についての確認や、その日気付いた事の引継ぎ等、チームで連携して支援を行っているか。	6		ミーティングを介してチーム共有と、支援担当と当日担当の間の個別で、など状況によって変えて取り組んでいる。		

	20	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		日々サービス提供記録に取り組んだことと、目標に対してのフィードバック、支援に対しての気づきを記入し共有している。	
	21	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	22	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6			
	23	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		選択肢の中から自己選択できるようになる声掛けと、自由選択の場面で自己決定を促していく為の練習の場を設けている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2		連携体制はあるものの、特に利用者が通っている施設でないところでは、あまり取り組みの例がない。
	26	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		定期的に、学校はじめ利用者の利用施設との情報共有は電話や対面、メールなども使い連携を密に取っている。	
	27	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1		まだ例がない。今後、そのような場合には、サポートや情報共有の姿勢は整えている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	29	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3		全体や集団に対して行う研修の形で行う事は難しく、取り組めていないのが現状である。反面、個別に面談は随時細やかに行っている。
保護者への説明等	30	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		利用開始時に運営規定をはじめとする方針の読み合わせを行い、日々の支援については毎回取り組んだ内容を保護者に説明/共有を行っている。	
	31	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	32	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	33	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		随時も行っているが、定期的に情報共有を行いたいと希望の保護者様に対しては定期的な面談も実施している。	
	34	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	35	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		Instagramを主に使い、日々の様子や行事についてをお知らせしている。大事な連絡については紙面と公式LINEから情報を送らせて頂いている。	
	36	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	1	個人情報取扱時のルールや場所を決めるなど、環境を整えている。	ルールを策定してから日が経ち、油断からミスがみられる場面もあるので、事故になる前に全体への情報取り扱い研修を再度入れたいと考える。
	37	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		個々人で様々なこだわりや、取りやすいコミュニケーションがある為、臨機応変に利用者本人に合わせて支援の形を選択している。	
非常	38	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	39	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		義務化された研修とともに、定期的に避難訓練やストックの確認に取り組んでいる。	
	40	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4	2	利用開始時と年度ごとに聞き取りを行い、更新を行っている。	服薬している薬の効能について、職員間で知識に差があることが分かった為、情報交換の場を設けたいと考える。
	41	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	5	1	利用開始時と年度ごとに聞き取りを行い、更新を行っている。	医師からの指示については、保護者様主導で取り組んでもらっている。

時 等 の 対 応	42	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1	ヒヤリハットを作成、朝のミーティングで危険だったことやどうしたら良いかを共有している。	ヒヤリハットの記録ファイルは取り出しにくい場所にあり、見返しにくい為、置き場所の再考も考えていきたい。
	43	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットを作成、朝のミーティングで危険だったことやどうしたら良いかを共有している。	
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1	支援計画の更新時に説明を、利用時の場合に合わせて説明を行っている。	